

大澤真幸 『新世紀のコミュニズムへ 資本主義の内からの脱出』

まとめ

(大澤真幸, 2021, NHK出版新書652 新世紀のコミュニズムへ
資本主義の内からの脱出, NHK出版, 東京.)

原稿 : <http://everything-arises-from-the-principle-of-physics.com/post-capitalism>

まえがきより

資本主義の中で上手くやっていく方が現実的？

- フレドリック・ジェイムソン
「資本主義の終わりを想像するよりも、
世界の終わりを想像することの方が容易だ」
- マーク・フィッシャー「資本主義リアリズム」
- フランシス・フクヤマ「歴史の終わり」

資本主義を続ける方が非現実的であり、
理想的な社会を求める方が現実的

第1章 人新世のコロナ禍

キューブラー=ロスの5段階

1. 「否認」 ……危機を認めない
2. 「怒り」 ……先進国の大企業が
大量の化石燃料を使っていることへの怒りなど
3. 「取引(バーゲニング)」 ……いづらか環境に配慮する代わりに
「持続可能な発展」を目指す, 破局の先延ばし
4. 「抑鬱」 ……「もう手遅れだ, 人類は滅亡するしかない」という絶望
5. 「受け入れ」 ……破局の不可避性を一方では認めつつ,
取引的な妥協を超えた抜本的な変化を提案

第2章 普遍的連帯の(不)可能性

5 禁欲の資本主義

コロナ禍の経済活動の停止

「資本主義は死につつあるわけではない」という確信

实体经济の裏付けのない
株価の上昇

普遍的連帯の阻害

資本主義には
一部の人だけが
救われる格差が必用

ベーシック・インカム(BI)

すべての個人に,いかなる条件もつけずに定期的に現金を給付
政府は当面,国債を発行して財源を確保するしかない
(代わりに社会保障制度を縮小するのは本末転倒)

現代貨幣理論(MMT:Modern Money Theory)

貨幣は政府にとって,返す必要のない負債

→ 政府はいくら借金をしても大丈夫

難点:MMTは貨幣を可能にする,政府への負債感を自明視

資本主義の下ではいずれ失敗するMMT&BIも,

資本主義の放棄に繋がるまで活用すれば,コモンズを確立できる

第3章 惨事便乗型アンチ資本主義

【note】

斎藤幸平は、ベーシックインカム(BI)や現代貨幣理論(MMT)では資本の側の抵抗や物象化(人間が貨幣に振り回されること)を解決できないと考えており、国家の力を介した**トップダウン型の資本主義改革**を「**法学幻想**」として斥けている。

資本の抵抗を抑えるだけの力が社会運動の側にあるなら、医療や高等教育, 保育・介護, 公共交通機関などをすべて無償化して,**脱商品化**するといったように、ベーシック・インカム以外の方法で物象化を解消できるはずである。

(斎藤幸平「ゼロからの『資本論』」第5章)

- 「フリーライダーを許すな」と言っていた人たちは、
自身が生活保護受給者になった場合、身を挺して「フリーライダー」になるだろう
- 社会福祉制度において、「恥じ入れ」「身の程を知れ」「お前がいま釘付けになっている最下層から出るな」などと、社会的弱者に屈辱感を与えるのは本末転倒
- ベーシック・インカムで21世紀の「ランティエ」になれ

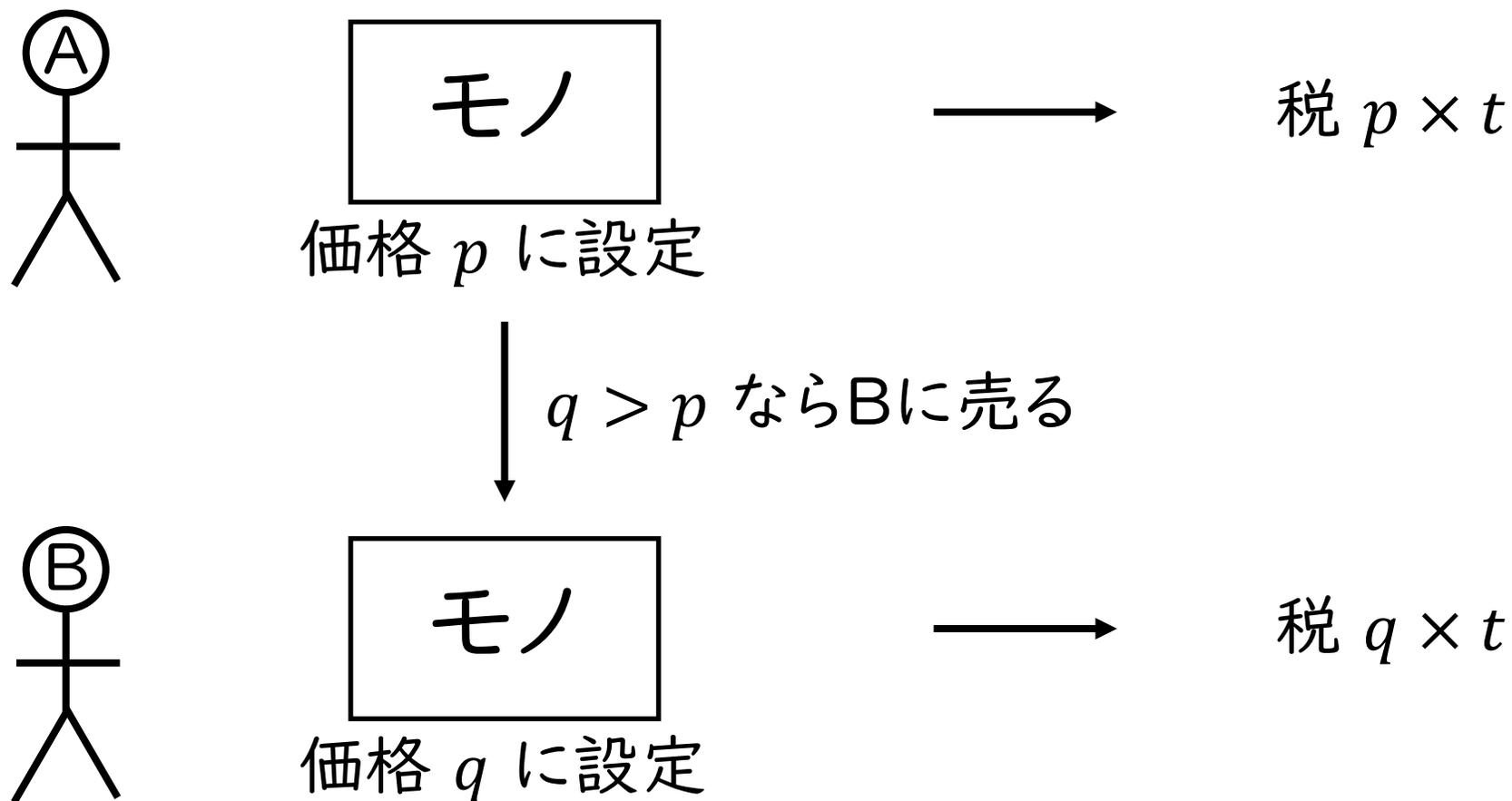
(内田樹『コモンの再生』pp.36—47)

第3章 惨事便乗型アンチ資本主義

「コモンズ(共有地)の悲劇」→ 実験的に杞憂

共同所有自己申告税(COST: Common Ownership Self-assessed Tax)

あくまで一案, 全てのモノに適用しなくても良い



第4章 脱成長のための絶対知

1 人新世の危機に抗するために

「緑の経済成長」＝「取引」(第3段階)

【note:ジェヴォンズのパラドクス】新技術が開発されて生産性・効率性が向上すると、その分商品が低廉化して、かえって二酸化炭素の排出量は増える。

「脱成長コミュニズム」(第5段階)

(斎藤幸平『人新世の「資本論」』)

1. 経済の重心を「価値」(≡交換価値, 貨幣の量によって測られる)から「使用価値」(物の性質)へと転換すること
2. 労働時間の削減
3. 分業の廃止
4. 生産過程の民主化
5. 労働集約型のエッセンシャル・ワークを重視

第4章 脱成長のための絶対知

2 悪い報せとよい報せ

(左派)加速主義 = 「抑鬱」(第4段階)の反面

【関連】情報テクノロジーは多くのモノやサービスを無料にする傾向を持ち(例:3Dプリンターでの建築), また余暇を増やすことでコモンとしての生産物を作り出す報酬の伴わない協働的な“仕事”を可能にし, 資本主義を終わらせる潜在的な能力を持つ(ポール・メイソン). ただし情報技術を独占しようとする資本から情報技術をコモンとして守るには, 下からの社会運動が必要である. なお情報は簡単にコピーでき, 共有されて初めて意味を持つため, そもそも資本主義の私的所有の論理にはなじまない.

(マルクス・ガブリエルほか『資本主義の終わりか、人間の終焉か？未来への大分岐』第3章)

資本主義の中にいるからこそ,
大半の人は貧しいのだ

第4章 脱成長のための絶対知

2 悪い報せとよい報せ

【note】

社会主義を標榜する中国やソ連の実態は独裁的な「**国家資本主義**」であり、社会主義の理想からかけ離れている。ソ連崩壊は Kommunismus の失敗を意味しない。

(斎藤幸平「ゼロからの『資本論』」第5章)

- 自由とは自らを貫く必然性に従って行動することであり、逆に**ありもしない自由意志**の行使を迫られる苦境は、不自由である。(Spinoza)
- 労働者は「自分は自由で自発的に働いている」と錯覚し、資本家にとって都合のよい労働者像を、あたかも自分が目指すべき姿だと思い込むようになっていく(魂の包摂)
(斎藤幸平「ゼロからの『資本論』」第2章)

多くの若者たちが左翼世代として社会主義の理念に共鳴、脱成長のトレンド

(斎藤幸平「ゼロからの『資本論』」p.234)

若い人たちの地方移住や帰農・就活からの撤収 (内田樹『コモンの再生』p.70)

DIYや**ある種の異世界アニメ**(古典としてはモリス『ユートピアだより』などか)の流行りもその表れか

第4章 脱成長のための絶対知

3 交換価値か，使用価値か

必要な物より「売れそう」なもの

使用価値

(交換)価値

資本主義

$G-W-G'$ (お金が目的)

資本主義以前

$W-G-W'$ (お金は手段)

※G:貨幣(Geld), W:物(Ware)

第4章 脱成長のための絶対知

3 交換価値か，使用価値か

貨幣による使用価値の締め出し

【note】「遊びとしての勉強」は「役に立たない」？

「将来のために勉強しろ」という大人も、
学問そのものに価値を認めているとは限らず、
「それ自体が喜びをもたらす自己充足的な遊び」としての
勉強のあり方にはかえって嫌悪感を示すことさえあり得る。
その遊びこそはおそらく勉強の本質であり、
資本主義の論理から自由であるための鍵なのだが。

第5章 新世紀のコミュニズムへ

2 新世紀のコミュニズムのために

【GAFA】

IT業界の独占企業, Google, Apple, Facebook, Amazon の総称
本来, 共有地であるサイバー空間を不当に囲い込み, レント(賃料)をとって儲けている

- 「監視資本主義」 ← 「モニタリング民主主義」で対抗
- 「両面市場」 偽装された共有地と私有地のギャップからの利潤
- レント資本主義は非民主的な権威主義体制を求める
← サイバースペースをコモンズにするしかない

3 資本主義に内在するコミュニズム

「利潤率の傾向的低下の法則」

V : 可変資本(労働力の購買のため), C : 不変資本(生産手段や原材料の購買のため), M : 剰余価値

$$\text{利潤率} \quad r \equiv \frac{M}{C + V} = \frac{M/V}{1 + (C/V)}$$

搾取率(一定) ← M/V

← (C/V) 増大

客観的な法則というよりもむしろ, 利潤率が資本家と労働者の勝負の動向を示す指標であることを意味する

人新世のコロナ禍

キューブラー=ロスの5段階

ベーシック・インカム(BI)

惨事便乗型アンチ資本主義

共同所有自己申告税(COST)

現代貨幣理論(MMT)

「コモンズ(共有地)の悲劇」は杞憂

「緑の経済成長」は現実逃避

脱成長コミュニズム

ジェヴォンズのパラドクス

(左派)加速主義 = 「抑鬱」の反面

G-W-G' 監視資本主義

貨幣による使用価値の締め出し

GAFAs

モニタリング民主主義

両面市場

レント資本主義

利潤率の傾向的低下の法則